

## 第1学年C組 生活科学習指導案

授業者 渡部 和朝  
研究協力者 中野 良樹  
教材分析協力者 長瀬 達也

### 1 単元名 ようちえんのともだちと いっしょにあそぼう

### 2 子どもと単元

#### (1) 子どもについて

子どもたちは、1学期の「なつがやってきた」において、身近な自然や物を利用しておもちゃづくりを楽しみ、遊びを創り出すことの面白さを味わった。その中で、楽しく遊ぶためには「おもちゃの工夫」とともに「友達との関わり」が大切だと気付くことができた。理由としては、スタートカリキュラムの段階で、遊びの中で友達と関わり合いながら学ぶ経験を積み重ねてきたからだと考えられる。また、2年生が企画した「おもちゃパーティー」に参加し、手作りの動くおもちゃで一緒に遊ぶ中で、風を送ることによって得られる動力を生かしたおもちゃの面白さを味わい、「自分もこんなおもちゃを作ってみよう」と次の活動に向けて意欲をもつ姿が見られた。さらに園児との交流会（なかよしタイムパート1）を通して、「園児にどうしたいのかを聞く」「相手がどういう人なのかを判断して接する」など、年齢が下の友達に対してどう関わればよいのかについても考えるようになっていく。

しかしながら、自分の思いや願いに固執するあまり友達の助言を受け容れることができず、協力してよりよい遊びを創り出すことについては、まだ十分とは言えない子どももいる。また、気付きの質の高まりについては、対象について知的かつ情意的な側面から多様な気付きを得てはいるものの、対象への働きかけをよりよくしながら、自分自身の成長への気付きにまで高まっていないのが全体としての傾向である。

#### (2) 単元について

本単元では、身近にある物を使っておもちゃを作ったり、園児と交流したりすることを通して、遊びを創り出す面白さに気付くとともに、年下の友達と関わり合いながら自分自身の成長を実感することをねらいとしている。そこで「なつがやってきた」で見つけた「おもちゃの工夫」と「友達との関わり」を「学びのものさし」に据え、単元を通して更新しながら活動を進めていく。実際に遊んでみることで得られる「園児と楽しく活動するには、もっと工夫をする余地がある」との認識を生かしながら活動を進めることで、過去の自分と比べた現在の自分への気付きが多く得られる単元である。

このような特質を踏まえて本単元では、身近にある物を使いながら遊びを創り出し、園児と遊ぶことを通して、多様な他者とゆるやかにつながる共生社会を生きていく子どもたちに求められる**共に活動する相手に思いを寄せ、一緒に遊ぶ楽しさを実感しながら、これからの成長への願いをもって意欲的に生活する**という資質・能力を育むことを目指す。園児と共に楽しむという目的意識をもちながら、友達と協力してよりよい遊びを創り出すとともに、気付いたことを伝え合い、学級全体で共有することを通して、自分自身の成長へと気付きの質を高めていく子どもの姿を期待して本単元を設定した。

#### (3) 指導について

単元の初めに、楽しく遊ぶために必要なことを確認したり見付けたりできるように、夏休みの自由研究でおもちゃ作りをした子どもを取り上げ、作り方や遊び方を紹介し合い、自由に遊ぶ活動を設定する。そして「おもちゃを使って、1Cオリジナルの楽しい遊びを考えよう」と投げ掛け、意見交流をしながら、どのような遊びにするかを共通理解する。次に、楽しく遊ぶために必要なことを焦点化できるように、これまでの遊びを通して得た気付きを「おもちゃの工夫」や「友達との関わり」の視点でイメージマップ図に整理し、一人一人の気付きを関連付けながら、今後に向けて必要なことに気付けるようにする。さらに「おもちゃの工夫」について子ども同士で認め合えるように、友達からの助言や見直した点などをシートに書き、意見交流する場を設定する。活動を経る中で生まれるであろう「作ったおもちゃを使って園児と楽しく遊びたい」という思いや願いを叶えるために、交流会（なかよしタイムパート2）を実施することを伝える。交流会に向けては、楽しく遊ぶために必要なことを実感できるように学級内でお試し交流会を行い、本時では、そこで得た「友達との関わり」についての気付きを生かしながら、更に楽しくなる遊び方の工夫について話し合う。その際は、園児の実態を踏まえたものになるように、ゲストティーチャーから随時助言を述べてもらう。

単元の終末では、学んだことのよさを共有できるように、園児と交流をした後に、これまでの活動を振り返る場を設定する。その際は、更新してきた「学びのものさし」を基に視点を提示し、「自分自身の成長に結び付いている気付き」を意図的に取り上げる。そして、なぜその気付きを得ることができたのかを問い、園児のことを思いよりよい働きかけをしてきたことが、自分自身の成長につながったことを実感できるように価値付けしながら、学級全体の気付きの質の高まりにつなげていく。

### 3 単元の目標（記号は本校の資質・能力表による）

- (1) 身近にある物に関心を持ち、遊びに使う物を作ったり、友達や園児と一緒に遊んだりする活動を通して、遊びを創り出す面白さに気付く。 〈a-1、k-3〉
- (2) 身近にある物を使って遊びに使う物を工夫して作ったり、友達や園児とのつながりを大切にしながら遊びを創り出したることができる。 〈k-1、k-2〉
- (3) 園児の思いや願いを想像しながら活動し、自分のできるようになったことが増え、成長を実感することを通して、意欲と自信をもって生活しようとする。 〈a-3、r-1〉

4 単元の構想（総時数16時間）

なつが やって きた  
身近な自然や物を使っていろいろな遊びを楽しみ、遊びを創り出すことの面白さに気付く。

本単元

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1 2	(1) 夏休みの自由研究で作ったおもちゃで遊び、楽しい遊びについて考える。 ・〇〇さんは△△を工夫しているな。 ・□□さんの説明はいいね。 ・おもちゃを使った遊びを創ることはとても面白そうだ。	・楽しく遊ぶために必要なことを見付けられるように、「学びのものさし」である「おもちゃの工夫」と「友達との関わり」に沿った気付きを取り上げる。 ・楽しい遊びを考えることができるように、「おもちゃを使って、1Cオリジナルの楽しい遊びを考えよう」と投げ掛け、意見交流をしながら、どのような遊びにするかを共通理解する場を設定する。	・自分と友達とのつながりを大切にしながら、楽しく遊んでいる。(ケ-2) ・身近にある物を利用して遊びを創り出す面白さに気付いている。(キ-3)
3	(2) 楽しく遊ぶために必要なことを話し合う。 ・友達のことを考えてどのように遊ぶかが大切だ。	・楽しく遊ぶために必要なことを焦点化できるように、これまでの遊びを通して得た気付きを「おもちゃの工夫」や「友達との関わり」の視点で、イメージマップ図に整理する。	・友達に思いを寄せながら、おもちゃや遊び方の工夫を考えている。(ケ-2)
— 学習課題① — すてきなおもちゃをつかって、ともだちとたのしくあそぼう。			
4 5 6	(3) 必要な材料を集め、おもちゃを作る。 ・風を送ると車が速く走るから、友達が喜びそう。	・「おもちゃの工夫」について自覚できるように、工夫が見られた子どもに対しては、おもちゃの変化に着目しながら、働きかけを価値付ける言葉掛けをする。	・身近にある物の特徴を生かしたおもちゃをつくらせている。(オ-1、ケ-1)
7 8 9	(4) おもちゃで遊び、もっと楽しくなる方法を考えて見直す。 ・〇〇さんからのヒントを生かして作り直したよ。 ・幼稚園の友達と一緒に遊んでみたいな。	・子ども同士で認め合えるように、友達の助言や見直した点などをシートに書き、意見交流をする場を設定する。 ・活動を経る中で生まれるであろう「園児と一緒に遊びたい」という願いを叶えるために、交流会を実施することを伝える。	・作ったおもちゃで遊びながら、もっと楽しくなるように見直している。(オ-1、ケ-1・2)
— 学習課題② — あそびかたをかんがえて、ようちえんのともだちとたのしくあそぼう。			
10 11 12 本時	(5) 園児との遊び方を話し合い、交流会の計画を立てる。 ・楽しく遊ぶには、分かりやすい説明が大切だ。 ・僕が楽しいと、幼稚園の友達も楽しめるよ。	・園児と楽しく遊ぶために必要なことを実感できるように、学級内でのお話し交流会を設定する。 ・園児の実態を踏まえた話し合いになるように、ゲストティーチャーが随時助言を述べることができるようにする。	・遊び方について話し合ったことを根拠にして、交流の計画を見直している。(ケ-1・2)
13 14 15	(6) 交流会の準備をして一緒に遊ぶ。 ・困ったら幼稚園の先生に聞いてみよう。	・楽しい活動になるように、交流会（なかよしタイムパート2）の際は、必要に応じて幼稚園の先生からアドバイスをもらうように助言する。	・園児に思いを寄せながら、交流計画を見直し、工夫して遊んでいる。(ケ-2)
16	(7) これまでの活動を通して得た気付きについて伝え合う。 ・相手のことを考えて行動できるようになったよ。	・学級全体の気付きの質の高まりにつなげられるように、意図的に「自分自身の成長に結び付いている気付き」を取り上げ、なぜその気付きを得ることができたのかを問う。	・自分の成長を実感することを通して、意欲と自信をもって生活しようとしている。(ア-3、ウ-1)

**◎本単元で育む主な資質・能力**  
共に活動する相手に思いを寄せ、一緒に遊ぶ楽しさを実感しながら、これからの成長への願いをもって意欲的に生活する。(ケ-1・2)

たのしい あき いっぱい  
遊びに使う自然物を選び、試行錯誤しながら秋の自然を生かした遊びを楽しむことができる。

5 本時の実際 (12/16)

(1) ねらい お試し交流会で得た「友達との関わり」に関する気付きに着目し、遊び方について話し合う活動を通して、交流の計画を見直すことができる。 (ケ-1・2)

(2) 展開 ○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>
2分	<p>① 前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・僕は「おもちゃの工夫」を多く見付けたよ。</li> <li>・今日は「友達との関わり」の勉強だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「友達との関わり」を中心とした話合いとなるように、「おもちゃの工夫」については前時まで確認し、おもちゃを見直す際に生かすように伝えておく。</li> </ul>
33分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">課題 たのしい「なかよしタイムパート2」にするためには、どうすればよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そら組のみんなは、楽しみにしているんだ。</li> <li>・ゲストティーチャーは知りたいことを教えてくれるから、困ったら聞いてみよう。</li> </ul> <p>② 試し遊びをし、良かった点について全体で意見交流をしながら、楽しい交流にするために見直したい点をグループで話し合う。</p> <p>&lt;予想される子どもの反応&gt; 【良かった点が分かっていない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループの良かったところが分からない。</li> <li>・どの遊びも分かりやすかったと思うけれど、直すところがあったら教えてほしいな。</li> </ul> <p>【良かった点は分かるが、更に良くするために、どうしたらよいか分かっていない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明は分かるけれど、どうすればもっと分かりやすくなるのかな。</li> <li>・遊びを担当しているグループの人が一緒に遊んでくれて楽しかった。どんなルールにすればもっともっと楽しく遊べるだろう。</li> <li>・遊び方がとても面白かった。でも、幼稚園の友達はこの方法で大丈夫かな。</li> </ul> <p>【良かった点が分かり、更に良くするために、どうしたらよいか分かっている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんの言葉の説明は良かった。絵を貼って説明するともっとよいんじゃないかな。</li> <li>・一緒に遊ぶのはとてもよいね。幼稚園の友達と一緒にルールを決めて遊ぶのもっと楽しいと思うよ。</li> <li>・△△グループは遊び方を工夫していたよ。幼稚園の友達と一緒に車を走らせるともっと面白くなるよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に意欲をもつことができるように、ゲストティーチャーが園児の思いや願いを述べる場を設定する。</li> <li>・お試し交流会で得た気付きを再確認し、自信をもって発言することができるように、試し遊びする場を設定する。</li> <li>・意欲的に話合いを進めることができるように、「説明が分かりやすかった」「遊びのルールを工夫している」「遊び方が面白い」など、良かった点に目を向けながら意見交流が進むように配慮する。</li> <li>○良かった点が分かっていない子どもがいた場合は、これまでの話合いを踏まえて、友達の意見の中で自分の考えに近いものがないかを問う。</li> <li>○交流会に向けての問題意識を共有し、遊びの見直しに向けての意識を高めることができるように、「分かりやすい説明するには」「どのようなルールの工夫があるか」「遊び方を面白くするには」などについて遊びのグループで話し合い、全体で意見交流をする場を設定する。</li> <li>・園児の実態を踏まえた話合いになるように、子どもから質問が出たり、園児の実態から逸れた意見が出たりした場合には、ゲストティーチャーが随時助言できるように打合わせをしておく。</li> <li>○見直したことのよさを実感できるように、グループで話し合ったことを生かした試してみる場を設ける。</li> </ul>
10分	<p>③ 本時を振り返り、次時への見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初はどこ直せばよいか分からなかったけれど、□□さんの意見を聞いて分かりました。</li> <li>・幼稚園の友達が分かるように直して、みんな楽しく遊べるように頑張りたいです。</li> <li>・◇◇さんは、幼稚園の友達のことをよく考えていると思いました。</li> <li>・幼稚園の友達の気持ちを考えて作ることができて、自分は少し成長できたと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことのよさを自覚できるように、気付きを記述するシートを準備し、紹介し合う際には、見直した点を明確にしている姿を適切に価値付ける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>遊び方について話し合ったことを根拠にして、交流の計画を見直している。 (ケ-1・2) (発言・シート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時からの活動に意欲をもつことができるように、ゲストティーチャーの期待を述べる場を設定する。</li> </ul>

# 令和5年度 生活科実践・研究計画

部 員	○渡部 和朝、保坂 智子、丹 理人
-----	-------------------

研究テーマ  
**思いや願いをもって対象への働きかけをよりよくしながら、気づきの質を高めていく子どもを育む学び**

## 1 研究テーマについて

昨年度までの実践では、子どもたちは思いや願いはもっているものの、働きかけと結果との関係を十分に理解できず、思いや願いの実現に向けて働きかけをよりよいものへと更新していくという点について課題が残った。そのため、よりよい働きかけをしたという手応えや自分自身の成長の実感が生まれていないというのが現状である。

こうした現状を踏まえ、今年度は、気づきの質が高まるように「無自覚なものから自覚された気づき」「一つ一つの気づきから関連付けられた気づき」「対象への気づきから自分自身への気づき」へと気づきの対象を変化させ、働きかけをよりよいものへと更新できるように学習を進めていく。

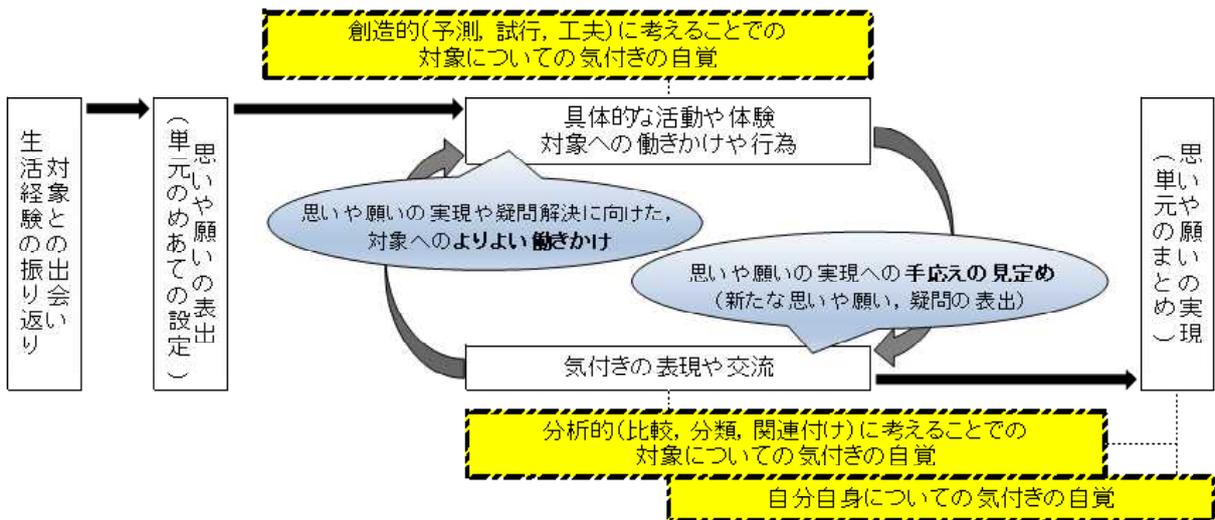
そのためにはまず、教師が子どもに尋ねたり活動の振り返りを促したりしながら、気づきの自覚化を図るようにする。また、子ども同士で学び合う場面を設定し、互いの気づきを比べながら、相違や新たなことに気付くことができるようにする。さらに、他者からの価値付けにより、自分の成長や可能性などの気づきを得られるようにしていく。

本校生活科で育みたい力は、対象へ働きかけて得た気づきの質を高め、思いや願いの実現への手応えを見定める力であり、働きかけと得られた対象の反応や結果の関係を自覚し、対象への働きかけをよりよいものへと更新していく力である。

そこで、働きかけの方向性を見通し、働きかけをよりよくしながら思いや願いの実現を目指す姿を期待し、「思いや願いをもって対象への働きかけをよりよくしながら、気づきの質を高めていく子どもを育む学び」の研究テーマで実践を積み重ねていく。

- 生活科で目指す自律した子どもの姿
- ・分析的（比較、分類、関連付け）に考えることで、働きかけて得た手応えや抱いた思いや願いを自覚し、実現への手応えを見定める姿
  - ・手応えを基に、創造的（予測、試行、工夫）に考えることで、働きかけと対象の反応や結果との関係を自覚し、対象への働きかけをよりよいものへと更新していく姿

図：生活科 自律した学習者を育てる学習のプロセス



## 2 研究の重点<○は具体的な取組の例>

- 対象への働きかけをよりよいものへと更新し、気づきの質を高めるための手立て
- 思いや願いの実現に近づくために、働きかけをよりよいものへと更新しながら気づきの質を高めることにつなげる、教師の働きかけや学び合いの支援について工夫する。
  - 試行錯誤して得られた対象の反応や結果と働きかけについての気づきを関連付けられるように、思考ツールやICT機器を活用する。

## 令和5年度「生活科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容		学習指導要領との関連内容	1年	2年	
生活科の学びに向かう力、人間性等	a1	学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。	全般	■	■
	a2	身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。	全般	■	■
	a3	自分自身を見つめることを通して、意欲と自信をもって生活するようにする。	全般	■	■

内容構成の具体的な視点	項目	内容	学習指導要領との関連内容	学校、家庭及び地域の生活に関する内容		
				1年	2年	
内容構成の具体的な視点	健康で安全な生活	ア1	健康に気を付けて、規則正しく生活ができる。	(1)学校と生活 (2)家庭と生活	■	■
		ア2	安全に気を付けて、楽しく安心して遊びや生活ができる。	(1)学校と生活 (3)地域と生活	■	■
		ア3	安全な登下校ができる。	(1)学校と生活	■	■
		ア4	通学路の様子やその安全を守っている人々に気付くことができる。	(1)学校と生活	■	■
	身近な人々との接し方	イ1	学校生活を支えている人々や友達に気付くことができる。	(1)学校と生活	■	■
		イ2	家庭での生活は互いに支え合っていることに気付き、自分の役割を果たすことができる。	(2)家庭と生活	■	■
		イ3	地域で生活したり働いたりしている人々と適切に接することができる。	(3)地域と生活	□	■
	地域への愛着	ウ1	自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることに気付くことができる。	(3)地域と生活	□	■
		ウ2	地域の人々や場所に親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりすることができる。	(3)地域と生活	□	■
	公共の意識とマナー	エ1	公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりすることができる。	(4)公共物や公共施設の利用	■	■
		エ2	身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる。	(4)公共物や公共施設の利用	■	■
		エ3	みんなで使うものや場所、施設を大切に正しく利用できる。	(4)公共物や公共施設の利用	□	■
	生産と消費	オ1	身近にある物を利用して作ったり、繰り返し大切に使用したりすることができる。	(6)自然や物を使った遊び	■	■
		オ2	必要なものを自分で計画的に買ったり、用件を正しく伝えて買い物などしたりすることができる。			□
	情報と交流	カ1	相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりし、様々な手段を適切に使って直接的間接的に情報を伝え合うことができる。	(8)生活や出来事の伝え合い	■	■
		カ2	身近な人々と関わることのよさや楽しさに気付き、身近な人々と関わったり交流したりすることができる。	(8)生活や出来事の伝え合い	■	■
身近な自然との触れ合い	キ1	動物を飼ったり植物を育てたりして、生き物への親しみをもち、大切にすることができる。	(7)動植物の飼育・栽培	■	■	
	キ2	身近な自然(草花、樹木、水、氷、雨、雪、風など)を観察し、それらの違いや特徴を見付けることができる。	(5)季節の変化と生活 (6)自然や物を使った遊び (7)動植物の飼育・栽培	■	■	
	キ3	自然の面白さや自然の不思議さに気付くことができる。	(5)季節の変化と生活 (6)自然や物を使った遊び (7)動植物の飼育・栽培	□	■	
	キ4	動物や植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、動植物は生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。	(7)動植物の飼育・栽培	□	■	
時間と季節	ク1	四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くことができる。	(5)季節の変化と生活	■	■	
	ク2	一日の生活時間や季節の移り変わりを生かして、生活を工夫したり楽しんだりすることができる。	(5)季節の変化と生活	□	■	

遊びの工夫	ケ1	身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができる。	(6)自然や物を使った遊び	自分自身の生活や成長に関する内容	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	ケ2	自分と友達などのつながりを大切にしながら、遊びを創り出し、みんなと楽しく過ごすことができる。	(6)自然や物を使った遊び		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
成長への喜び	コ1	自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、生活での自分の役割が増えたことに気付くことができる。	(9)自分の成長	自分自身の生活や成長に関する内容	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	コ2	自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつことができる。	(9)自分の成長		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	コ3	自分の成長を喜び、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとするすることができる。	(9)自分の成長		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
基本的な生活習慣や生活技能	サ1	生活のリズムを整え、時間を守ることができる。	全般	自分自身の生活や成長に関する内容	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	サ2	道具や用具の準備、片付け、整理整頓ができる。	全般		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	サ3	ルールやマナーを守ったり、適切な挨拶や言葉遣いをしたりすることができる。	全般		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	サ4	訪問や依頼の仕方を知ったり、電話や手紙などを使って連絡したりすることができる。	全般		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

#### 生活科の学びを深める「見方・考え方」

- b1 自分の知識や経験をもとに、会いたい人、行きたい場所、してみたいことなどに着目して、自分の思いや願い、関心や疑問をもつ。
- b2 身近な人々、社会及び自然などの対象に、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして直接働きかける。
- b3 試す、見通す、工夫するなどの活動により、試行したり、予測したり、工夫したりなどして創造的に気付きを得て考える。
- b4 見付ける、比べる、たとえるなどの活動により、気付きを比較したり、分類したり、関連付けたりするなどして分析的に考える。
- b5 気付きや考えなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法によって、他者と伝え合ったり、振り返ったりする。
- b6 身近な人々、社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのかに着目し、自分自身や自分の生活について考え表現する。